芭蕉誌

第26号
2026年9月発行

琉球大学同窓会関東支部会報誌



2025年度の関東支部総会

本年度の総会･懇親会のお知らせ

日時:2026年10月17日(土)13:00~16:00

場所: 千代田区一ツ橋2-6-2　日本教育会館(9F)喜山倶楽部

会費8,000円

お気軽にご参加下さい
懐かしい、そして楽しい出会いがあります

※ご不明の点は事務局へメールまたはお電話でご照会ください

編集発行　琉球大学同窓会関東支部･事務局

目　次

P１…… 表紙　2026年度総会・懇親会のお知らせ

P２…… 目次、2026年度総会・懇親会の式次第

P３…… 名嘉盛光支部長　支部長挨拶に代えて

P４…… 喜納育江学長　学長メッセージ

P５…… 琉球大学最近のトピックス

P６～８…… 幸喜徳子本部同窓会会長　退任メッセージ

P９…… 同窓生便り 橋本奈月（国際言語文化学科2009年卒）

P10～13…… 写真で振り返る2025年度総会・懇親会

P14…… 同窓生便り 永江哲也（大学院農学研究科1998年修了）

P15…… 決算報告及び予算案、活動報告、役員名簿

P16…… 同窓会費納入のお願い・ご寄付のお願い

2026年度　琉球大学同窓会関東支部
第33回総会&懇親会　式次第

場　　所：日本教育会館　喜山倶楽部（飛鳥の間）　千代田区一ツ橋 2−6−2

日　　時：2026年10月17日（土）13：00～16：00

【総　会】
- 13：00　挨　拶　名嘉 盛光 琉球大学同窓会関東支部支部長
- 13：05　ご挨拶　高安 正勝 琉球大学同窓会会長
- 13：10　ご挨拶　喜納 育江 琉球大学学長
- 13：15　議案　2025年度　活動報告&来期活動計画
  - 2025年度　決算報告&来期予算案
  - 2025年度　監査報告
- 13：25　本部同窓会からの活動費の贈呈
- 13：30　閉会の辞
- 13：35　写真撮影（全体）

【懇親会】
- 13：50　乾杯
- 13：55　出席者1分間スピーチ
- 15：35　パフォーマンスタイム（三味線・尺八等）
- 16：00　閉会の辞

弓と青春

支部長挨拶
に代えて



琉球大学同窓会関東支部長　名嘉（ナカ） 盛光（モリミツ）

1967年　富山インターハイ出場
1970年　長崎国体参加
1972年　九州学生弓道大会参加
1973年　1日（24時間）千射に挑戦

1974年　琉球大学教育学部保健体育学科 卒業
1995年　新宿4丁目でコンビニ（フランチャイズ）経営
2000年　会社設立
2007年　中野区中央でDining darts bar Mocaboy経営
2009年　港区新橋でコンビニ（フランチャイズ）経営
2010年　渋谷区初台でDarts bar Ryu's経営
2019年　新宿3丁目でコンビニ（フランチャイズ）経営
2019年　中央区銀座でコンビニ（フランチャイズ）経営
2023年　中野坂上駅ハーモニータワー地下1階でDining bar Ree経営

2026年　東洋医学研究部門設置

中学卒業の頃「料理職人」になりたいと母に言ったら、高校くらいは出ないとダメだと言われ、高校に行くことになった。高校一年の夏、仲良くなったクラスメイトと部活の話題になり、見たことのない弓道部に一緒に入ることになった。和弓を見るのは初めてで、その美しさに虜になった。そのころ弓道場は沖縄県に一つしかなかった。弓道部のある高校は５校で、部員も各校５人くらいであった。翌年、那覇市与儀に沖縄弓道連盟の道場が完成し、連盟道場で稽古をすることになった。高校には弓道場がないので、授業終了後、与儀に行くという毎日であった。他の高校も同じで、与儀の沖縄県弓道連盟の弓道場で５校が一緒に稽古をした。社会人の大人も一緒にやり、老練者が全ての高校生を指導していた。学校の部活の顧問の先生は弓道をやったことがない。高校の全国大会があることを知り、目標をインターハイ富山大会に向けて頑張ることにした。学校の授業が終わってからの稽古だけでは練習量が足りないので、学校のブロック塀の外の空地に弓場（ゆば）を作ることにした。近辺から砂地を集め、的（まと）を置く安土（あずち）を作った。それからは雨の日以外毎日、早朝、昼休み、授業後と一日三回稽古ができた。高校二年になり、インターハイ沖縄予選で一位になり富山大会のキップを手にした。三年になり、国民体育大会沖縄予選高校の部で一位になったが本大会の参加はなくなった。国民体育大会に参加したい一心で弓道部のある琉球大学に進学し入部した。琉大一年十八歳の秋、長崎県で行われた国民体育大会（長崎国体）に四〇歳台の熟練者二人とチームを組み出場した。長崎国体参加中に大学の弓道大会があることを知り、琉大弓道部も九州学生弓道連盟に加盟することにした。翌年、九州学生弓道大会に出場し大学弓道をスタート。しかし、琉大キャンパスには弓道場がなく、毎日与儀の沖縄弓道連盟道場に出かけた。九州学生選手権に出場するならもっと稽古の時間が欲しく、首里キャンパス機械工学科ビルの前にある空地に弓道場を作った。沖縄では大人の団体の試合がなかったので弓道連盟の先輩の方にお願いして三チームを作ってもらい、定期リーグ戦を年二回企画、沖縄弓道定期リーグ戦を誕生させた。

大学では弓道一色、卒業と同時に弓道も卒業。あれから半世紀過ぎ、ドイツの哲学者オイゲン・ヘリゲルの書「弓と禅」に出会う。

禅を意識した人生の引き納め（納射）を考えるようになった。



富山インターハイ（1967年）に出場。左から二人目、弓を弾いているのが筆者

長期ビジョン「地域と共に豊かな未来社会をデザインする大学」の現在地

学長メッセージ



第18代琉球大学学長　喜納 育江

1990年　琉球大学法文学部文学科 卒業
1993年　米国ペンシルベニア州立インディアナ大学 英米文学部修士課程 修了
1996年　米国ペンシルベニア州立インディアナ大学 英米文学部大学院博士課程 修了
1996年　琉球大学法文学部 講師
2001年　琉球大学法文学部 助教授
2007年　米国カリフォルニア大学バークレー校 客員
2011年　球大学法文学部 教授
2019年　琉球大学 学長補佐
2023年　琉球大学 副理事・副学長
2025年　琉球大学 学長

琉球大学同窓会関東支部の皆さまにおかれましては、平素より本学の教育研究活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

法人化以降、１期6年で行われてきた日本の国立大学法人評価も、今年度で第４期の5年目に入りました。6年目の最終評価の前の4年目終了時には中間評価があり、本学も、今年度は、昨年度までの教育研究等の活動実績について大学評価機関からの審査を受けます。来年度で第４期が終了すると、令和10年度からは第５期の中期目標・中期計画期間が始まります。

さて、この第５期に向けた、琉球大学の研究・教育活動の目標ですが、実は、今日の琉球大学にも、高等教育における人材育成や、国立大学法人としての経営改革を要請する社会の波が押し寄せています。その背景にあるのが、予想をはるかに上回って進行する少子化や、インフレによる物価高騰、目まぐるしいスピードで発展する科学技術と、これらに伴う産業構造の変化などです。

琉球大学は、創立以来、「地域貢献大学」をアイデンティティとして、「象牙の塔」というより、地域社会の発展に寄与することをめざした教育・研究、そして人材育成を行ってきました。しかし、こうした「地域のための学問」は、今日、地域社会との一層強固な連携のもとで、社会課題の解決と社会実装化をめざす研究・教育の実践へと変化しています。

沖縄では、昨年2025年5月に、産業界を中心にゲートウェイ2050成長戦略（GW2050）が策定されました。これは2050年の沖縄社会をあらゆる面から「豊かに」することを目標とした、県全体のグランドデザインと実行計画です。しかし、現実には、2040年の沖縄ではどの職場でも深刻な人手不足となることが予想されており、現在、沖縄の産業、学術、行政、金融の各界が一体となって地域人材の育成に取り組む体制を整えているところです。

琉球大学も、高度な知識や技術で人材不足を補える人材の輩出をめざして、質の高い教育を提供できる環境を整えなくてはなりませんが、本学の財務状況は相変わらず厳しいものがあります。同窓生の皆さまにおかれましても、引き続き、本学へのご理解と温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

最後になりますが、16年間、琉球大学同窓会本部会長として本学の教育・研究を支援してくださり、今年度を以て会長を退任された幸喜徳子様に本学を代表して心から深く感謝申し上げます。



同窓会関東支部の総会にて　2025年10月

琉球大学 最近のトピックス



2025.10.01　共創技術ラボ琉大のオープニングセレモニー



2025.12.01　【出張】台湾ダイバーシティ事業関連表敬訪問



2026.04.16　岸本基金 ジェイソン山本さん



2026.05.03　那覇ハーリー



2026.04.02　入学式(沖縄アリーナ)



2026.05.20　国際学術カンファレンス



2026.07.02　琉大同窓会幸喜会長謝恩セレモニー



2026.08.03西表研究施設視察

※琉球大学の昨年度の教育・研究の活動状況については、デジタル版の『琉球大学統合報告書2025』をぜひご覧ください。琉大の現在地や展望について、カラー写真や図表をふんだんに使い、どなたにも読みやすい報告書となっています。琉球大学のホームページ（https://www.u-ryukyu.ac.jp）にアクセスし、右上の「サイト内検索」の枠内に「統合報告書」とご入力いただければデジタル版をご覧いただけます。

正副会長としての20年を振り返って

退任メッセージ



琉球大学同窓会9代目会長　幸喜 徳子

経　歴

1966年　琉球大学教育学部卒業
　　県立豊見城高等学校教諭拝命(～66)
1967年　日本航空(株)国際線　乗務(～70)
1977年　沖縄石油ガス(株)（～現在）
1994年　沖縄県国際交流財団専務理事(～99)
1994年　沖縄キリスト教短期大学
　　非常勤講師・特任教授(～2014)
2004年　沖縄県公安委員・委員長(～12)

資格・褒章等

1989年　アメリカ連邦航空局
　　自家用パイロット免許取得
1999年　アメリカ連邦航空局
　　パイロット座学教官免許取得
2014年　旭日小綬章　受賞　皇居参内
2018年　琉球大学　名誉博士　授与

芭蕉誌第26号の発刊､誠におめでとうございます。過去26年の歴史を刻んでこられた正、副支部長、特に長年、芭蕉誌も編集を担当なされた金城利光様のご苦労はいかばかりかとお察しいたします。心から感謝申し上げます。

この度、会長あいさつの依頼を頂き、折角の機会ですので会長として16年務めた中で、主な事業を振り返ってみたいと思います。

私は2006年から4年間を副会長、2010年から2026年まで16年間を会長として努めました。会長に就任して思った事は、これだけ有能な同窓生がおられるので、この人材を活用しもっと活発な活動を、との思いでした。学生と母校支援に繋げようと考えたのです。

まず初年度から「沖縄の発展」をテーマに毎年シンポジウムや講演会を開催し、県内の財界、金融界、マスコミ、医療界、行政、教育界等あらゆる分野のトップリーダーの皆様にご登壇頂きました。そのイベントは同窓生だけでなく一般の方々へも無料で開放し、毎回好評のうちに推移して今日に至っております。当該事業へ参加して頂いた多くの同窓生、あるいは県民の皆様が、琉球大学同窓会への関心を深めて下さいました。

県内のトップリーダーの稲嶺惠一元県知事をはじめ安里昌利様、山城正保様、古波津昇様等多くの皆様が私の後押しを惜しまず心からの支援を頂きました。お蔭様で大学創立60周年では県民の皆様から1200万円余、創立70周年の折には1500万円を大学へ直接寄贈して下さいました。よくぞこれだけの大金を私共の呼びかけに呼応してご寄付下ったと感謝しております。更に当会70周年事業の募金活動には県内企業や同窓生からおよそ3000万円のご寄付を頂きました。

大学へは課外活動費奨励金として累計3000万円



岸本基金調印式　2016年4月



ゴルフ大会　2019年4月



課外活動奨励金100万円贈呈　2018年5月



宮城悟氏100万円寄付　2019年5月

余、また同窓会創立記念の折々に、同窓会から学長へ直接200万、500万円等の寄付金を贈呈しております。更に2018年からは学生支援チャリテイゴルフ大会をスタート。初会は321名が参加し、その後は2年おきに300名規模の参加者で開催。2024年迄は琉球ゴルフクラブにて開催し、今年からは沖縄ロイヤルクラブで実施しています。2016年には念願の給付型奨学金制度を制定。当初は3名の学生に１人６０万円を給付しておりましたが、その後7名に増やし、そして昨年からは10名に各自60万円を給付しております。

今年3月からは2名の学生を米国留学に送りだすまでになりました。喜納学長の人脈によりカリフォルニア大学サンタクルーズ校へ派遣しました。私が会長に就任した時から心に決めていた米国留学への学生派遣が、やっと実現でき嬉しい限りです。来年3月、2期目の米国への留学生2名には１人100万円を給付致します。この資金は経済界で私が長年ビジネスでお世話になっている友寄隆文会長、桂子夫人からこれまで1千万円と1億円を2度に亘り、寄付して頂いたお蔭です。同寄付金はTK氏奨学金という名称にて別会計で管理しております。

関東支部の宮城悟様からも、コロナの前に100万円を3回にわたって寄付して頂きました。50万円を10年間寄付して下さっている匿名の方もおられ、皆様に深く感謝申し上げます。近年、県内外の同窓生他、一般県民が琉球大学同窓会を支援しようという機運が高まり嬉しい限りです。

コロナが蔓延した時には600万円を投じ、新入学生40名にパソコンを給付しました。私は日頃から県内の企業を訪問し、寄付を頂き、奨学金の資金として積み立てていましたが、コロナ禍に入り困っている学生を支援しようと、決断したのです。翌年もコロナは治まらず、100名の困窮した学生に１人5万円を給付しました。総額500万円を放出しましたが、学生らの喜ぶ顔が今も忘れられません。

琉大に在籍している留学生に向けたホームビジットという国際交流イベントも立ち上げました。同窓生や一般県民の家庭に留学生を招き、土曜日や日曜日に5時間ほど交流します。沖縄の文化を伝え、相手国の文化を知る、あるいは近所の名所・旧跡を案内する、さらには沖縄料理や琉球舞踊を紹介するといった内容で好評のイベントです。

大学へは平成元年から同30年迄、課外活動奨励金として毎年100万円を寄付しておりました。その後は奨学金を優先し一時中断しておりましたが、一昨年、資金繰りが充分できましたので再開しています。直接、部活動を実施している学生らに、現金を給付しています。

八重山支部は20年間休眠状態でしたが、2013年に初代支部長を自費で訪問し、次期支部長を幸喜に任せるとの承諾を得ました。大城肇元学長に新たな人事を推薦して頂き､2014年に支部の再興を果たし、今日では活発な活動を続けています。

社会貢献活動の一環として、毎年、県内マスコミ3社が企画する、生活に困っている子どもたちの夢を応援する募金への支援を行っております。

さて、結びに岸本正之様、多摩子ご夫妻について述べます。

私が副会長の頃に、学内に桜を300本寄贈し、大



ホームビジット　2019年6月


沖縄の未来を語り未来に繋ぐ講演会　2024年7月


学生への特別支援金授与式　2021年5月


友寄隆文氏寄付金贈呈式　2024年10月

学とは良好な関係でしたが、突然、絶交状態となりました。「二度と母校に支援はしない」との事。先代会長が「あなたがアメリカへ行く時に、彼のお宅へ行って気持ちを取り戻して欲しい」との申し送りがありました。私は使命感をいだき、それ以後、年に何回か社用で訪米の度に、彼らを訪問しました。

正之様と私は琉球大学の先輩、後輩というだけでなく、日本航空での先輩、後輩の関係でもありました。彼がワシントン支店の職員として勤務している同時期に、私はサンフランシスコ、ロザンゼルス、ニューヨークを経由しロンドン、パリまでの飛行機に乗務し、フライトが終わると、いつもアメリカ各地を闊歩していたのです。当時はアメリカだけでなくバンコク、ニューデリー、イラン、ベイルート、ローマ、パリ、その他オーストラリア、東南アジア諸国等、地球狭しと活動していました。彼のお宅ではそんな昔話に花が咲き、毎週のスタッフミーテイングにも参加して欲しいと、嬉しいお誘いになりました。ロサンゼルス滞在中、岸本様の講話を伺い、ご夫妻の世界的なボランテイア活動に驚きました。例えばサモアの熱帯雨林の乱開発を世界の富裕層の方々と一緒にやめさせて経済的救済をした事、アフリカのマラウイ集落の子供らに栄養食を何千個も送っている事など、彼らの活動は枚挙に暇がない程です。偉大な先輩の事を末長く後輩に伝えたい、とキャンパスに同氏の記念碑を建立しましたが、その年の8月にご夫妻が沖縄へ里帰りをした際、セレモニーを行い「生きている間にこのような立派な記念碑を作ってもらい嬉しい」と大層、喜んで頂きました。

その4か月後、12月、ロサンゼルスに滞在していた私に、彼の家でお正月を一緒に迎えようとのお誘いがあり、大晦日から岸本邸に泊りました。元日、お節料理を頂いた後、コーヒータイムは書斎でと招かれ、書斎に行くと大きなテーブルに一枚の紙が置かれておりました。「幸喜さんそれ読んで」と言われ、目を通すと「琉球大学へ7億円を寄付する」と記されてあり驚きました。彼は「いつまでも大学に背を向けていては、頑張っている幸喜さんに申し訳ない」と言って下さいました。また、「その紙を持って琉球大学と橋渡しをして欲しい」とのことでした。帰国後、直ぐに大城肇学長(当時)に岸本氏の寄付申し出の文書をお渡しすると、学長はそれを見つめて絶句しておられました。


セスナ機でフライト中の幸喜会長

2017年、その年から琉球大学岸本基金が始まり、私は管理委員長としてのボランテイアを長年勤めた後、先日辞任致しました。2026年7月末には同窓会長も辞退し肩の荷を下ろした気持ちでおります。当会創立60周年と70周年事業の芸術祭、祝賀会も盛会裏に終えることができました。

これまで私を心から応援して下さった全国の同窓生、そして特に関東支部の皆様には心より深く感謝申し上げます。これらの事業と約2億円の財産を高安正勝新会長にバトンをつなぎ、今後ますます関東支部同窓会が発展することと、皆様のご多幸を祈念し筆を置きます。

2026年7月吉日


18の旅立ち寄付　2024年10月



海外留学支援金交付式　2026年2月



琉大へ500万円贈呈　2025年2月


岸本正之氏顕彰碑記念日セレモニー　2026年3月

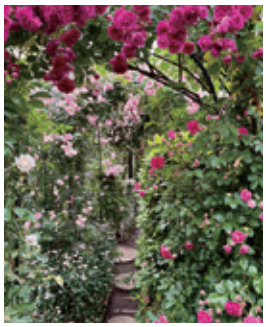
同窓生便り

橋本 奈月



2009年　琉球大学法文学部国際言語文化学科 卒業
2017年　菊地法律事務所　入所



ご縁に育てられて

今年、銀座の法律事務所に勤めて10年目を迎えました。事務所への入所を機に、琉球大学同窓会関東支部とのご縁もいただきました。事務局を担っておられる中島信一郎先生と私の上司に仕事上のつながりがあり、ご紹介いただいたことが始まりです。

10年目という節目の日、出勤すると机の上に一通の手紙が置かれていました。上司である弁護士の先生からいただいた、便箋五枚にわたる手紙でした。面接で初めてお会いした日のことから今日までの思い出、そして感謝の言葉が丁寧に綴られていました。中でも心に残ったのは、9年間無欠勤で勤務を続けてきたことへの言葉です。

「無欠勤を続けることは誰にでもできることではありません。9年間の積み重ねは、毎日の仕事に誠実に向き合う姿勢と、日頃の健康管理の表れだと思います。今では当たり前になっていますが、私が一番感謝していることです。」自分では当たり前と思っていた日々を見てくださり、それが信頼という形につながっていたことを知り、胸が熱くなりました。

その手紙をいただいて間もなく、私生活でも心に残る出来事がありました。義母は花を育てることが好きで、庭にはバラをはじめ四季折々の花が咲いています。訪れるたびに表情を変えるその庭は、まるでイングリッシュガーデンのようで、花が好きな私にとって憧れの場所です（上部写真）。ある日、私が「夏は花を枯らしてしまって難しいですね。」と話すと、義母は穏やかな笑顔でこう言いました。

「別に枯らしてもいいのよ。その時がくれば、きれいに咲かせられるから。」後になって伺うと、その見事なバラも最初から順調だったわけではなく、何十年もの試行錯誤を重ねながら育ててこられたそうです。その言葉を聞いたとき、不思議と上司からいただいた手紙を思い出しました。

毎日の仕事も、花を育てることも、一朝一夕に実を結ぶものではありません。目立たなくても、一日一日の積み重ねが人を育て、信頼を育み、やがて大きな実りにつながっていくのだと感じました。そして、その積み重ねを支えてくれるのは、人とのご縁なのかもしれません。

関東支部もまた、多くの先輩方が長い年月をかけて育んでこられた場所です。世代や歩んできた道を超えて交わされる会話には、それぞれが積み重ねてこられた人生の重みがあります。その言葉に励まされ、新しい視点や気づきをいただくことも少なくありません。

現在、関東支部では、より多くの若い世代の方々に参加していただくことが課題となっています。私が今日まで同窓会とのご縁を大切にしてこられたのは、多くの先輩方が温かく迎え、育ててくださったからです。そこでいただいた励ましや学びは、今も私の支えとなっています。だからこそ、これから関東で新しい一歩を踏み出す後輩たちにも、このような温かなご縁と出会いを届けられる場所であってほしいと願っています。そして私自身も、先輩方からいただいた温かさを、今度は次の世代へつないでいける存在になりたいと思います。

これまで育てていただいたご縁に感謝しながら、私もまた、この関東支部という大切な場所を育んでいく一人でありたい——そんな思いを新たにしています。



今年度の本部同窓会で花束のプレゼンターを務める

写真で振り返る
2025年度総会・懇親会

昨年度の関東支部の総会は、2025年10月18日(土)、恒例となりました日本教育会館・喜山倶楽部にて開催されました。第18代琉球大学学長に就任された喜納育江新学長と幸喜徳子本部同窓会会長のご臨席を得ることができました。喜納新学長からはご経歴の紹介のあと、琉球大学を取り巻く環境と今後のビジョンについて丁寧な説明があり、幸喜会長から同窓会創立70周年記念の各種事業を中心とした活発な活動の報告がありました。同窓諸氏約40名のご参加もあり、活動報告や会計報告、次年度予算案などの議案を滞りなく審議し、ご承認を得ました。同窓会本部よりの活動資金目録の授与、昨年勇退された高山厚子前支部長への記念品贈呈を含め、総会は予定通り終了いたしました。

総会に続いて行われた懇親会では、ご参加いただいた同窓各氏の１分間スピーチで大いに盛り上がりました。その様子を写真でご確認ください。今年も盛会にしたいと思います。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。



・沖縄料理研究家
・沖縄県修学旅行アドバイザー
・沖縄県観光功労者受賞
・日本観光振興事業功功労者受賞

高　山　厚　子

携　帯 090-6501-8648
E-mail:takayama2002atsuko@yahoo.co.jp
空飛ぶあっちゃんのブログ（Facebook）

中島信一郎法律事務所

弁護士　中　島　信一郎

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目9番6号 陽光銀座三原橋ビル6階
TEL 03(6226)2200　FAX 03(6226)2201
E-mail:nakajima@nakajima-law.net

懇親会 ①



弁護士
弁理士　大　城　純　市

弁護士　大　城　陽（ヒ）菜（ナ）

大　城　純　市　法　律　事　務　所
JUNICHI　OSHIRO　LAW　OFFICE
〒900-0021　那覇市泉崎１丁目３番地７泉崎レジデンス２階
TEL（098）860-8404　FAX（098）861-8369
Mail　j-oshiro@ryucom.ne.jp

サザンクロスシステムズ

東京本社・宮崎本社・関西事業所・福岡事業所

代表取締役社長　永田 英一郎
（工学部機械工学科 昭和62年卒）

卒業生活躍中 7名

20th Anniversary since 2007

写真で振り返る
2025年度総会・懇親会



懇親会 ③



同窓生便り

永江 哲也



1992年　神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校　卒業
1996年　東京農工大学農学部生物生産学科　卒業
1998年　琉球大学大学院農学研究科生物生産学専攻　修了
1998年　海洋博覧会記念公園管理財団（～99）
1999年　公園緑地管理財団（～2000）
2001年　川崎市役所入庁
2026年　川崎市役所都市農業振興センター農地課勤務



「琉球郵便」の
特別返信切手券など

楽しい関東支部の幹事会とナーベラーのことなど

私は1973年生まれ、同窓会関東支部の事務局次長の一人です。福岡出身の両親が上京した横浜で育ち、大学は父の反対もあり琉大ではなく東京の大学に入学し、大学院から琉大に入学しました。

関東支部の同窓会に初めて参加したのは2023年です。キッカケは、2022年冬に大量に授かった本土復帰前の琉球切手類の活用を三線の先生で、偶然にも琉大卒でもあったNM先輩に相談したことでした。先生から「永江くん、関東支部同窓会に持参したらどうかね。例年、学長も参加しているし、良い方法が見つかるかも」と助言され、初めて関東支部の存在を知ったのです。しかし、コロナ禍で2022年の同窓会は開催されませんでした。

2023年は私が50歳の年で各種同期会も多く、支部同窓会を気にしていましたが、支部HPは更新されず開催有無が不明でしたので、メールしたところ返信がTKさんからありました。TKさんの返信のおかげで2023年の関東支部の同窓会に参加することができ、当日は会場準備のお手伝いを少しさせていただきました。東京にいながら、沖縄と関係を持ち続け、何かしら恩返ししたい想いがありましたので、少しのお手伝いでしたが、それ以上の達成感を味わえました。

気がつけば、今は数か月ごとの幹事会に参加しています。幹事会の議題は総会開催や会報誌作成が中心ですが、時には話が横道にそれて、それがまたとても楽しく和やかでよい雰囲気です。2024年にできた幹事会のグループLINEでは雑談もあり、日常の潤いになっています。

幹事会をキッカケに家庭菜園にやりがいが出始めました。昨年（2025年）春、沖縄料理研究家でヘチマ（ナーベラー）を食材として関東での普及に邁進している関東支部の高山名誉顧問（前支部長）から、「今年は沖縄で新害虫の生息が確認され、ナーベラーの入手が困難になりそうです。永江さんの方でも用意できませんか」と相談されましたので、ナーベラーを優先的に栽培しました。幸い収穫できましたので高山顧問にお渡しし、また支部総会に持込みご参加の皆さんにお分けし、喜ぶ姿を見られたので大変嬉しかったです。このように、同窓会を通して出会いや嬉しさがあり、また家庭菜園のやりがいが高まるなど生活に良い影響が出ています。

2024年に関東支部の支部長が代わり、幹事会では引継ぎがしばしば話題になります。先輩方がお元気なうちに話をお聞きし、想いを引継ぐと共に、次にバトンタッチできるよう、同窓会参加者を増やしたいです。そのためにも、他の幹事と一緒に、無理のない範囲で、同窓会の情報をSNS等で発信し、関東支部の認知向上及び総会・懇親会への参加のキッカケづくりができれば幸いです。

冒頭の切手類は2023年に沖縄の恩師に託しましたが、恐らく、そのままと推測されます。御興味ある方は御連絡ください。



家庭菜園のナーベラー

2025年度決算報告 & 2026年度予算案

単位:円

決算報告書(2025.9.1 ～ 2026.8.31)

収支報告書				
収　入	予　算	実　績	比較増減	摘　要
前期繰越	854,266	854,266	0	
総会費(二次会・三次会込)	400,000	437,000	37,000	出席者48名
祝儀・寄付金	100,000	85,000	－15,000	
広告料収入	100,000	110,000	10,000	
活動費・旅費(本部より)	175,000	175,000	0	
受取利息	0	1,038	1,038	
合計	1,629,266	1,662,304	33,038	
支　出	予　算	実　績	比較増減	摘　要
事務用品費	10,000	539	－9,461	
通信費	100,000	92,645	－7,355	
封筒作成費	20,000	0	－20,000	
会報誌作成費	120,000	145,710	25,710	
総会費(二次・三次会込)	400,000	552,368	152,368	
広告掲載料	12,000	24,000	12,000	
旅費・交通費	65,000	100,000	35,000	
雑費・その他	50,000	56,860	6,860	
次期繰越	852,266	690,182	－162,084	
合計	1,629,266	1,662,304	33,038	

来期(2026年度)計画

来期予算	
収　入	摘　要
690,182	
400,000	8,000円×50名
100,000	
150,000	
175,000	
0	
1,515,182	
支　出	摘　要
10,000	
100,000	
20,000	
120,000	
450,000	
12,000	
100,000	
50,000	
653,182	
1,515,182	

貸借対照表(2026.8.31現在)			
資産の部		負債・繰越金の部	
普通預金	690,182	未払金	0
未収金	0	次期繰越金	690,182
合計	690,182	合計	690,182

2025年度活動報告

第6回幹事会　2025年9月27日(土) 15:00 ～
第7回幹事会　2025年10月11日(土) 15:00 ～
2025年度関東支部総会・懇親会
　　2025年10月18日(土) 13:00 ～ 16:00
同窓の遠藤憲悟氏演奏会を開催
　　2026年1月24日(土) 14:00 ～
第1回幹事会　2026年4月25日(土) 15:00 ～
第2回幹事会　2026年6月13日(土) 15:00 ～
第3回幹事会　2026年7月18日(土) 15:00 ～
2026年度本部定期総会・支部長会
　　2026年7月25日(土)永江事務局次長・橋本会計出席
第4回幹事会　2026年10月10日(土)15:00 ～ (予定)

2026年度　役員名簿

支 部 長	名嘉　盛光	体育学科	1974年卒
副支部長	崎浜　浩一	機械工学科	1965年卒
副支部長	島袋　朝順	電気工学科	1968年卒
副支部長	江洲　良一	電気工学科	1968年卒
副支部長	中島　信一郎	法政学科	1975年入
副支部長	宮城　悟	法政学科	1976年入
副支部長	仲本　光正	経済学科	1981年卒
事務局長	金城　利光	法政学科	1975年入
総務部長	髙橋　清志	物質地球科学科	1998年入
事務局次長	三村　邦彦	電気情報工学科	1992年卒
事務局次長	池間　裕人	電気工学科	1989年入
事務局次長	永江　哲也	大学院農学研究科	1996年入
事務局次長	鴨志田　啓人	工学科	2019年入
芸能部長	比嘉　千都代	心理学科	1968年卒
芸能部次長	遠藤　憲悟	生物資源科学科	2006年入
会　　計	橋本　奈月	国際言語文化学科	2009年卒
会計監査	奥村　弘美	養護科	1976年入
名誉顧問	高山　厚子	初等教育学科	1966年卒
顧　　問	渡久山　長輝	物理学科	1960年卒
顧　　問	中島　政彦	教育学科	1954年卒
顧　　問	重田　辰弥	法政学科	1959年入



本部同窓会定期総会・支部長会に参加(2026.07.25)
後列左から二人目が永江事務局次長、三人目が橋本会計。



同窓の遠藤憲悟氏演奏会(2026.01.24)

事務局からのお願い

総会・懇親会へのご出席

琉大の出身者で縁のある方は、全て同窓会関東支部の会員です。毎年、10月の総会・懇親会にはお気軽にご出席下さい。かつての学科やサークルの仲間と集う機会としてご利用下さい。

ご寄付のお願い

関東支部は、会員の交流を促進する様々な活動を企画・運営していきたいと考えています。その為の資金として、皆様にご寄付をお願いしています。ご協力を頂ければまことに幸いです。

振込先(郵便局口座)　郵貯銀行から振り込む場合：(記号)10500　(番号)52592781
他金融機関から振り込む場合：(店番)058　(預金種目)普通預金　(口座番号)5259278

琉球大学同窓会　関東支部

支部長：名嘉 盛光(体育学科 1974年卒業)
事務局住所：〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目9-6
陽光銀座三原橋ビル6階
(中島信一郎法律事務所内)
Tel：03-6226-2200
メールアドレス：ryudaikant@s17.xrea.com

webサイト　Facebook

X(旧Twitter)

芭蕉誌　第26号 琉球大学同窓会関東支部会報誌　【禁・無断転載】　発行日：2026年9月10日
発行人：中島信一郎(法政学科 1975入学)　編集人：金城利光(法政学科 1975入学)
編集人：永江哲也(大学院農学研究科 1996入学)



